

「室戸台風」を忘れない



花を供える児童



▲犠牲者の冥福を祈る児童

昭和9年9月21日、各地に大きな被害をもたらした室戸台風。八幡でも強風により八幡尋常高等小(現・八幡小)校舎が倒壊し、校長、教員と児童32人の尊い命が奪われました。

八幡小児童が慰霊碑清掃と献花

当時八幡小6年生だった南千恵子さん(88)は「災害のニュースが報道されるたび、この日の出来事を思い出し、涙が止まらず」と、時折涙を流して振り返り「倒壊した校舎の柱や壁土などに約7時間も下敷きになりました。当時は台風の情報が入らず、学校に行けば助かると思いました。校舎が倒れるなんて考えもしませんでした。生き埋めになった児童らの悲鳴など、70年以上経っても当時の様子は忘れられません」と話されました。



室戸台風で被害に遭った体験を話す南千恵子さん

後に、善法律師(八幡馬場)の境内に被害にあった児童たちの名が刻まれた慰霊碑を建立。現在も命日に八幡小の児童が慰霊碑の清掃と献花に訪れています。

孫とふれあいあふれる笑顔

わかたけ保育園で祖父母参観



気持ちを込めて、祖父母の肩をたたく園児

日頃の遊びを通して、孫の成長した姿をみてもらおうと、祖父母参観が9月15日、わかたけ保育園で行われました。125人の祖父母が集まり、元気に歌や手遊びを発表する孫の姿に目を細めていました。

ホールに集まった156人の園児は、身振り手振りを交えて「しあわせなら手をたたこう」などの歌や絵本「はらぺこあおむし」のペープサートを元気いっぱい披露。祖父母は、カメラやビデオでその姿を追っていました。

園児は「これからも元気でいてね」などと言葉をかけながら、肩たたき。最後に、幼児クラスの子もたちの似顔絵やメッセージを添えて作ったコースターをプレゼントするなど、園児の心のこもったもてなしに祖父母は感激の様子でした。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報誌についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

いつまでもお元気で

市長が100歳の4人をお祝い

敬老の日を前に、明田市長と森川市議会議長は9月11日、今年度100歳を迎えられる高齢者4人の自宅を訪れ、長寿をお祝いました。今年12月で100歳を迎えられる山添アサエさんは、ご長男夫婦とともに市長らを迎えられました。市長から贈られた記念品を笑顔で受け取られ、日ごろの暮らしぶりなどについて話されました。子ども2人、孫7人に恵まれた山添さんは現在、ご長男夫婦と3人暮らし。数年前までは手先を器用に使い、アームバンドなどを手作りするのが日課でした。果物やカニが大好きで「栄養状態も大変良いですよ」と医者から言われるほど、まだまだ元気です。

今年度、市内で100歳を迎えられる高齢者は13人。これで100歳以上の高齢者は40人(9月1日現在)となります。

安全運転で「事故はナシ」

八幡市交通安全対策協議会は9月22日「事故ナシ。キャンペーン」を八幡市駅前で行いました。参加者は、啓発チラシや特産のナシで作ったマドレーヌなどを通行人に手渡ししながら、交通事故ゼロを呼びかけました。

キャンペーンは、八幡特産の「梨」と事故「ナシ」をかけて、NPO法人京・流れ橋食彩の会が「長十郎」で作ったマドレーヌと市商工会女性部の手作りの啓発グッズなどを配布しました。

事務局から約20人が参加。駅前に並んだ参加者は「交通安全に気をつけましょう」「事故無しをお願いします」と呼びかけながら、マドレーヌ、啓発グッズやチラシなどを通行人に手渡し、交通安全を訴えました。



通行人に啓発グッズを手渡す参加者